日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話｛（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）043（222）7207番

92.8.21 No. 3645

清算事業団当局による宿舎明渡し提訴 動労

生活の場をも奪う卑劣な攻撃を許すな！

八月七日、清算事業団当局は、一九九〇年四月に清算事業団当局によって不当にも解雇された一〇四七名のうち、宿舎に居住する二百余名に対して、宿舎からの追い出しだけを目的とした裁判を一四地裁に提訴した。このうち、動労千葉の対象者は二名である。

全国14地裁に同日提訴

そもそも、宿舎明渡裁判は、JRが動労千葉の八五・一一第一波ストの解雇者のうち宿舎に居住する九名に対して起こしたものであり、昨年一二月に千葉地裁（並木裁判長）は、一人の証人調べも行わないまま、反動判決を下したのである。事業団当局は、そうした状況を見計らった上で一四地裁への同日提訴という許し難い反動攻撃を仕掛けてきたのである。

まさに、解雇だけでは飽きたらず、生活の場さえ奪おうというのである。われわれは、このような攻撃に対して、怒りを抑えることができない。

五・二八中労委の反動「解決案」提示、六・二五千葉地裁反動判決に続く、政府・自民党、JR、事業団当局によるあからさまな清算事業団闘争に対する破壊宣言である。

長期債務が膨れる清算事業団

しかし、こうした敵の攻撃は凶暴ではあるが、決して強さの現れではない。清算事業団の本来業務は、バブル経済の崩壊で完全に立ちゆかなくなり、長期債務は膨れるばかりである。分割・民営化の見直しさえ噂される状況であり、JR体制はまさに破綻寸前なのである。

団結を固め裁判闘争勝利へ

このような、青息吐息の当局に対するわれわれの回答はひとつである。組合員・家族の団結を強固にし、清算事業団闘争のさらなる強化・拡大をかちとることで当局を追い詰め、裁判闘争勝利へ前進することである。

知は力なり

機関誌『動労千葉』を読もう

時代の方向転換の中で、ややもすればその激しい流れに翻ろうされ、方針を見失ってしまうことは歴史上多く見ることができる。

動労千葉は、分割・民営化攻撃に二波のストライキで反撃し、満身創いとなりながらも「自力・自闘」の精神で闘いぬき勝利への展望をこじ開けてきた。こうした一〇年間の闘いは、激動の時期の到来の中でいかなる意味を持ち、どうのように生きかつ闘うべきかを教えている。

自衛隊出兵の時代の始まりというとてつもない情勢を迎え、何か特別の方途があるわけでわない。

結局、“実践と理論”を通し、自らの路線に自身と確信を打ち固めることから全てが始まるのではないだろうか。そうした観点から、ぜひ機関誌「動労千葉」の活用を訴えるものです。

千葉労組交流センター 反戦講座

とき 8月27日（木）18時30分～

ところ 船橋・東部公民館（津田沼駅から5分）

※今回は「戦争と教育」です。